

令和2年10月10日

愛知県上海産業情報センター

林 秀 幸

一般調査報告書

新型コロナウイルス肺炎の流行に伴う上海市内の状況について(9)



国慶節期間中、多くの人出で賑わった外灘（撮影：筆者）

10月1日から8日までは中国の大型連休でした。今年是中国の建国記念日にあたる国慶節と秋の中秋節が重なったため、例年よりも長い連休となりました。

この間、中国では約6億3,700万人が国内を移動したと現地メディアは報じています。世界的な新型コロナの影響下で海外旅行ができない中、多くの人々が国内各地の観光地に向かいました。生活関連サービスサイト大手の「美团」の調査によると国慶節の目的地Top10は、重慶、北京、上海、成都、南京、西安、青島、広州、鄭州、洛陽の順となっています。また、その他のレポート等では、海南省、雲南省、四川省といった地域も人気で、海外に出られない分、異文化や非日常的な風景に触れられるエリアの人気も高かったようです。

一方で、龍途互動 (dragon trail) の「中国消費者旅游意向調研報告」によると、今後たとえ海外旅行が解禁されたとしても、目的地が「新型コロナの感染者が0人」という条件を満たさなければ出国しないと答えた人が60%に上るというデータもあり、こうした調査からは、新型コロナ後の海外旅行に対するマ

インドの慎重さも伺われます。

1. これまでの主な経過

2020年

- 9月11日 ・李克強首相は、海外から外資を呼び込むための開放政策の強化を指示
- 9月15日 ・中国国内で新たに確認された新型コロナ感染者（国内発症者）が30日連続でゼロ（但し、無症状感染者は統計に含まれない）
・中国政府は、海外からの入境者の14日間の隔離措置を、8日目以降は自宅隔離に切り替え
・中国民航局は、8月の国内線旅客数が4,535万1千人となり、前年同月の8割程度まで回復したと発表（国際線は97.3%減）
- 9月15日 ・上海日本商工クラブのチャーター機（第1便）が上海に到着
- 9月17日 ・中国商務省は、1～8月の中国企業による海外投資が、前年同期比2.6%減の4,804億5千万元（約7兆4千億円）と発表
- 9月18日 ・広州日本商工会のチャーター機（第3便）が広州に到着
- 9月19日 ・中国商務省は、国家の主権や安全等の權益を損ねる恐れのある外国企業をリスト化し、輸出入等の活動を制限・禁止するブラックリスト規定を発表
・北京首都国際空港で、国際線再開後で初となる新型コロナの無症状感染者を確認
- 9月21日 ・中国國務院は、国内の自由貿易試験区を新たに3か所追加すると発表（北京市、湖南省、安徽省を追加、合計21か所に）
- 9月22日 ・米国の電気自動車メーカーのテスラ社が、上海工場の年間生産台数目標を100万台に引き上げると発表
- 9月23日 ・中国政府は、有効な居留許可を持つ外国人の入国を28日から認めると発表
- 9月24日 ・山東省青島市で、新型コロナの無症状感染者2名を確認、濃厚接触者200人以上を隔離観察（国内症例では8月20日以来の確認）
・広州日本商工会のチャーター機（第4便）が広州に到着（深圳日本商工会との共同手配）
・全日本空輸（ANA）と日本航空（JAL）は、中国路線の一部再開を発表（ANA 成田-広州・青島線、JAL 成田-広州線）
- 9月25日 ・上海市は、市内の地下鉄、高架鉄道など全ての駅（413駅）でマスクの販売を実施
・香港ディズニーランドが営業を再開
- 9月26日 ・北京国際モーターショーが北京市で開催（～10/5）
- 9月30日 ・上海日本商工クラブのチャーター機（第2便）が上海に到着

中国の国内感染状況：累計感染者数85,557人（10月10日現在）

累計死者数4,634人（〃）

※ 感染者数の数値は、中国国家衛生健康委員会の各日24時現在の公表データによる。なお、「国内」には香港、マカオ、台湾は含まない。

2. 上海市内の状況

新型コロナの感染流行を抑え、いち早く正常な社会活動を取り戻した中国ですが、学生の行動に関しては、依然として厳しい制約が課せられています。上海市では、市外に出た児童・生徒は14日間の自宅待機となり、その間は登校することが認められません。このため、国慶節8連休の休暇期間であっても、一度上海市外に出てしまうと14日間の自宅待機となってしまうことから、学生は事実上、市外への旅行や帰省などはできませんでした。

このため国慶節期間中、上海市内の子供を持つ家庭の多くは市外に出ることができず、市内の観光地で休暇を過ごすことになったようです。市内の有名ホテルは価格が2倍から3倍に上昇し、人気の観光施設では感染防止のため完全事前予約制で入場制限を行っていることもあり予約はすぐに完売しました。市内各地は、市外から訪れた一般の観光客と市内からの地元の家族連れで大変混雑しました。



上海市内の繁華街、南京東路の賑わい（撮影：筆者）

こうした中、上海日本人学校も市内の現地校と同様に厳しい防疫措置を行いながら運営が行われてきましたが、これまでの課題はむしろ、未だ日本から渡航できずにいる教師や生徒が多数いるという事でした。しかし、ここに来て、そうした状況も少しずつ改善されているようです。

7月3日に上海日本商工クラブが上海市政府に対し、「上海への日本人の渡航に関する支援の要望」を提出し、駐在員やその帯同家族への招聘状の迅速な発行を要望して以降、招聘状の発行は比較的スムーズに行われるようになったとの声が多く聞かれるようになり、8月22日には、有効な中国の居留許可（業務、私的事務、親族訪問）を所持する日本国籍者は、ビザ申請にあたって招聘状の提出は不要といった措置が発せられ、さらに9月28日からは、有効な居留許可を持つ外国人の中国入国に関する新たなビザ申請が不要となるなど、中国への入国に関する招聘状やビザの要件は徐々に緩和されてきました。

一方で、依然として渡航者の頭を悩ませているのは航空便の確保です。大幅に減便された現在の国際線の状況下で、チケット価格は通常の3～4倍に高騰し、1か月以上先の便のチケットをキャンセル待ちする状況が続いてきました。

こうした中、上海日本商工クラブが手配するチャーター機が9月15日と30日に運航されたほか、上海近郊の都市においても現地政府や航空会社の運航する臨時のチャーター便が運航されるようになり、定期路線も少しずつ再開され始めたことから、先月から今月にかけて、中国に入国する駐在員やその家族は日毎に増えつつあるようです。

10月8日には、日本政府が中国を始めとした12か国・地域に出している「渡航中止勧告」について、11月以降に警戒レベルを引き下げる調整に入ったといった報道もあり、少しずつですが両国の往来回復の兆しが見え始めてきました。まだ両国とも外国人観光客の受け入れは行っていませんが、一日も早い正常化が望まれるところです。

上海産業情報センターでは、今後も中国の現地情報を提供して参ります。

本資料は、参考資料として情報提供を目的に作成したものです。

上海産業情報センターは資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力していますが、その正確性を保証するものではありません。本情報の採否は読者の判断で行ってください。

また、万一不利益を被る事態が生じても当センター及び愛知県等は責任を負うことができませんのでご了承ください。